

「船」による青年国際交流の意義と効果について

内閣府・青年国際交流担当

「船」を使用した国際交流は、以下のとおり、独自の意義を有するとともに、他の手段による交流では得られない多くの顕著な効果をもたらすものであり、国際的な人材の育成、国境を越えた人のつながりの形成、国際親善・友好の推進等において、長年にわたり多大な実績と評価を積み重ねてきているものである。

1. 交流活動に対する効果

洋上の限定された非日常的な空間において、長期にわたりディスカッション等の交流活動に専念することができるとともに、海上での共同生活・濃密な交流が、「人生に一度の経験」として、参加青年間に国境を越えた生涯の絆を形成する。

実際に、「東南アジア青年の船」の全参加国、「世界青年の船」の参加國中46か国において、事後活動組織が組織され、活発に活動している。また、既参加青年が、それぞれ[SSEAYP FAMILY][SWY FAMILY]と呼ぶほど強い連帯感を持っている。

海に囲まれた「船」という場合は、各国からの参加青年が、いわば世界市民として、出身国にこだわらず、対等・平等な立場で、親密な交流を行うことが可能となる。

宿泊場所、交流のための各種施設が船の中にあり、多岐にわたる交流(セミナー、各国事情紹介、青年の自主活動等)を効率的・効果的に行うことができる。また、交流に必要な機材(各国の楽器、茶道具、衣装など)も大規模に運搬できる。

仮に、陸上で同様の限定的な空間を作り長期間研修を行うとした場合、過度の閉塞感等をもたらすものとなり、事業の効果が減殺される。

2. 「船」であることの対外的な意義、効果

訪問国においては、元首等への表敬や大臣等によるレセプション等が行われるなど事業への関心も高く、寄港した際には、日本国旗を掲げた船が訪問国のメディアで大きく報道されている。日本の国際友好親善への姿勢やプレゼンスをアピールする上で極めて効果的である。

各国において様々な種類の人的交流を通じた国際的な友好親善事業が実施されている中で、日本が「船」による交流を行うことは、四面を海に囲まれた「海洋国家」である日本にふさわしい国際交流である。

「船」による交流は、改善を図りながら、約45年間実績を積み重ね、「船」そのものがネームバリューを獲得し、関係各国との友好・信頼関係に寄与している。加えて、事後活動組織等を通じた人的なつながりの基礎となっており、わが国の外交・国際交流における貴重な財産となっている。

3. 移動と交流の両立

訪問国への移動と青年間の交流の双方の役割を同時に果たすものである。

なお、300名以上の人数が移動を行う場合、同一の飛行機での移動は困難あるいは不可能である。経費削減効果が少ない一方で、移動できる荷物の量にも大きな制約がかかったり、空港での待ち時間や通関手続が必要であったりするため、交流が長時間途切れたり、交流のための時間が減少する。